



# 男女共同参画推進機構 Newsletter

男女共同参画推進本部・ダイバーシティ研究環境支援本部・キャリア開発支援本部・ダイバーシティ推進センター

## 2020年度（令和2年度）男女共同参画推進活動

2020年度は予期せぬ「新型コロナウイルス感染症」のために、感染予防対策の実施、オンラインによる会議やセミナー、講演会の実施など、従来とは異なる事業の展開を余儀なくされました。そんな中で実施された本学の男女共同参画推進活動は、男女共同参画推進機構に置かれた、男女共同参画推進本部、ダイバーシティ研究環境支援本部、キャリア開発支援本部による取組に加えて、ダイバーシティ推進センターによる文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の様々な取組によって、幅広い活動へと発展いたしました。

昨年度採択されたダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業では、本学が代表機関となり、奈良工業高等専門学校、武庫川女子大学、株式会社プロアシスト、帝人フロンティア株式会社、佐藤薬品工業株式会社を共同実施機関とし、関西圏の女子大学、企業等が加わり、ダイバーシティのある研究環境実現に向けて取組を展開しております。今年度はあらたに京都女子大学を協力機関としてお迎えすることができました。

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）事業の主な取組として「附属病院をもたない機関における訪問型病児・病後児保育システムのモデル構築」があります。今年度は、本学、奈良工業高等専門学校、武庫川女子大学で実施したアンケート結果をまとめて研究者のニーズを確認するとともに、女性労働協会、多数の施設型病児・病後児保育施設、ファミリー・サポート・センター等を訪ねて意見交換を行い、課題を抽出しました。また、医療アドバイザーとして病児・病後児保育に携わる小児科医師および看護師、保育士の方々を迎えて、ワーキンググループを結成し、訪問型病児・病後児保育における様々な課題について検討を行いました。奈良市医師会や看護師団体等との連携もでき、講習を実施して病児・病後児を見ることのできるサポーター養成もいたしております。2021年2月18日には、シンポジウム「附属病院をもたない機関における病児・病後児保育の実現に向けて」をオンラインで開催し、文部科学省およびJSTから来賓を迎え、女性労働協会小林恭子氏による基調講演の後、本事業における取組の現状と課題について紹介しました。全国から128名の参加があり、病児・病後児保育に対する関心の高さを知り、ますます責任の重さを感じております。

そして、いよいよ2021年4月から「訪問型」病後児保育の試験運用を開始いたします。病児・病後児保育を実施するにあたっては、まだまだたくさんの課題があります。ネットワークを結成して、構築したモデルを全国に波及することも私どもの使命です。他にも男女共同参画およびダイバーシティ研究環境実現のための多くの取組を予定しており、引き続き引き締めて進めていきたいと思っております。みなさまのご理解ご協力をお願い申し上げます。



2021年3月

奈良女子大学副学長（男女共同参画担当）・男女共同参画推進機構長

安田 恵子

# ダイバーシティ推進センター



## 奈良から 関西から 女性研究者の支援を牽引 ～全国に広がれ！ダイバーシティの取組～

本学は代表機関として、奈良工業高等専門学校、武庫川女子大学、株式会社プロアシスト、帝人フロンティア株式会社、佐藤薬品工業株式会社（以下「共同実施機関」）との連携のもとで、2019年度に文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」に採択されました。様々な取組を実施し地域における女性研究者の活躍推進を牽引することを目指します。事業の活動拠点として「ダイバーシティ推進センター」が設置されています。

## 2020年度「ダイバーシティ推進センター」の活動

代表機関・共同実施機関では独自の取組を実施するとともに、ダイバーシティ推進センター（以下 推進センター）において実務者会議（オンライン会議を含む）を開催して、進捗状況や今後の実施内容について意見交換を行い情報共有を図り、推進センターとしての取組を進めている。推進センターには3つの部門「研究環境支援・研究力強化部門」「キャリア形成・国際力支援部門」「意識啓発・広報・リーダー育成部門」があり、本学の男女共同参画推進機構の3本部と密接な連携を取りながら活動を行っている。本事業に関係する本学での取組は3本部の活動と重なる部分があるので、それは省略させていただく。ここでは、本事業の特色ある取組として掲げている「附属病院をもたない機関における『訪問型』病児・病後児保育システムの構築」と新たに実施された取組について紹介する。

## シンポジウム『附属病院をもたない機関における病児・病後児保育の実現に向けて』開催

2021年2月18日（木）シンポジウム「附属病院をもたない機関における病児・病後児保育の実現に向けて」をオンラインで開催した。基調講演では、一般財団法人女性労働協会 第一事業部 小林恭子部長より、全国ファミリー・サポート・センターでの取組、特に病児保育についてお話をしていただいた。続いて、事業実施責任者の春本晃江（推進センター特任教授）より、「訪問型」病児・病後児保育が進まない要因、その解決のための方策、「訪問型」病児・病後児保育システムの構築に関して代表機関と共同実施機関の連携等について取組概要が説明された。そして、推進センターの4名のコーディネーター（大塚夏子、黒川佳子、上山沢子、八田智美）より、これまでの子育て支援システムの取組と実績の説明、アンケート調査・聞き取り調査に基づく病児・病後児保育の必要性と利用者の声の紹介、そして「訪問型」病児・病後児保育の実現に向けて具体的な説明が行われた。更に「子育て支援システムの地域への普及」に向けて、奈良工業高等専門学校の松村寿枝教授と武庫川女子大学の福尾恵介教授よりそれぞれの機関の状況と今後の取組が紹介され、春本晃江より、地域で病児・病後児保育を行っていくには、解決しなければならない課題が数多くあり、それらの課題を整理して実施可能な解決策を見つけ、共同実施機関と連携して本取組をモデルとして地域へ全国へ普及させることを目指すことが述べられた。参加者数は128名で、後日オンデマンドで配信された。

**Symposium**  
附属病院をもたない  
機関における  
病児・病後児保育の  
実現に向けて

2021.2.18 THURSDAY 13:30-16:30  
オンライン開催 毎日オンデマンドでも視聴可能

単申込み方法  
下記URLより申込みください。メールでも承ります。  
<https://forms.gle/ZCAQ7vqGvqkAu8u5>

単申込み締切：2月15日（月）

共同実施機関：奈良工業高等専門学校、武庫川女子大学  
共同実施機関：株式会社プロアシスト、株式会社フロンティア、株式会社佐藤薬品工業

Program

- 13:30-13:35 開会の挨拶
- 13:35-13:40 奈良女子大学学長・ダイバーシティ推進センター長 寺岡孝徳
- 13:40-13:45 文部科学省科学技術・学術政策課人材政策課長 佐藤 健
- 13:45-13:45 奈良女子大学学長・ダイバーシティ推進センター長 寺岡孝徳
- 13:45-14:35 基調講演 一般財団法人女性労働協会 第一事業部 部長 小林恭子  
「訪問型」病児・病後児保育の推進と全国ファミリー・サポート・センターとの連携について
- 14:35-14:45 基調講演 奈良女子大学学長・ダイバーシティ推進センター長 寺岡孝徳  
「訪問型」病児・病後児保育の推進と全国ファミリー・サポート・センターとの連携について
- 14:45-15:00 基調講演 奈良女子大学学長・ダイバーシティ推進センター長 寺岡孝徳  
「訪問型」病児・病後児保育の推進と全国ファミリー・サポート・センターとの連携について
- 15:00-15:05 基調講演 奈良女子大学学長・ダイバーシティ推進センター長 寺岡孝徳  
「訪問型」病児・病後児保育の推進と全国ファミリー・サポート・センターとの連携について
- 15:05-15:25 基調講演 奈良女子大学学長・ダイバーシティ推進センター長 寺岡孝徳  
「訪問型」病児・病後児保育の推進と全国ファミリー・サポート・センターとの連携について
- 15:25-16:00 基調講演 奈良女子大学学長・ダイバーシティ推進センター長 寺岡孝徳  
「訪問型」病児・病後児保育の推進と全国ファミリー・サポート・センターとの連携について
- 16:00-16:30 閉会の挨拶

## 代表機関と共同実施機関の連携

「訪問型」病児・病後児保育システムの構築に関してー



連携機関の間での情報共有：連携機関が集まる実務者会議を毎月開催し、全体での取組について議論し、各機関での進捗状況について報告



子育て支援システムの地域・全国への普及

## 「訪問型」病児・病後児保育システムのモデル構築

1. 「訪問型」病児・病後児保育システムのモデル構築のため、専門家を入れた検討WGにおいて、様々な課題について具体的な検討を行った。
2. 連携3機関（奈良女子大学、奈良工業高等専門学校、武庫川女子大学）で行った病児・病後児保育に関するアンケート調査(2019)の結果を分析し、結果報告書としてまとめた。
3. 奈良市こども未来部子ども育成課、病院や医院附属の病児・病後児保育園、病児・病後児保育を行っているNPO法人、附属病院をもつ大学の病児・病後児保育施設、（一財）女性労働協会、病児・病後児保育を行っている各地のファミリー・サポート・センター等に対して、病児・病後児保育の現状と課題等について調査（オンライン面接を含む）を行うと共に、本事業における病児・病後児保育の実施に向けての課題等について意見交換を行った。
4. 奈良市の医師会、看護師団体等と協働し、「訪問型」病児・病後児保育システムを運用する基盤を構築した。奈良市医師会小児科医連絡協議会で本事業の取組の説明を行い、連携の承諾を得た。病児・病後児を看ることのできるサポーター講習を実施した（参照：ダイバーシティ研究環境支援本部の報告）。4月からの病後児保育の試験的運用について利用者向けの説明会を実施した。
5. 「訪問型」病児・病後児保育システムの全国展開を目指し、共同実施機関と共に、地域への普及に必要なハード面、ソフト面について検討を重ねている。
6. 病児・病後児保育に関するシンポジウムを2021年2月18日に開催した。

## 女性研究者の上位職への登用に向けた取組

2019年度に制定した女性管理職支援制度の試験運用を開始し、2020年度には3名の女性管理職の方に適用した。また、マネジメント力・リーダーシップ力の向上を図るための女性管理職養成プログラムの内容について実務者会議で議論し、プログラムの内容と講師の選定を行い、コンテンツのビデオ収録を開始した。

### 管理職向けFD研修会

講演会「管理職に望むこと～ダイバーシティ環境を推進するために～」をオンラインで開催した（10月5日）。

### ならっこネット・ならっこルーム・ワークライフバランス支援相談室の共同利用

「ならっこネット」の共同利用を始めるために、奈良工業高等専門学校の教職員2名が「ならっこルーム」において試験的に共同利用を行った。ワークライフバランス支援相談室の共同利用を進めるためにチラシを作成し、共同実施機関に配布した。また、新型コロナウイルスの感染拡大防止のために、ミニ講座をオンラインで開催し、共同実施機関にもより利用しやすくした。

### 共同研究スタートアップ支援事業を3機関連携で実施

共同研究スタートアップ支援事業を、奈良女子大学、奈良工業高等専門学校、武庫川女子大学の連携で実施し、女性研究者が代表研究者となっている4件の共同研究が採択された（奈良女子大学2件、奈良工業高等専門学校1件、武庫川女子大学1件）。

### 特に優秀な女性研究者の顕彰と研究費支援を3機関連携で実施

奈良女子大学、奈良工業高等専門学校、武庫川女子大学の連携で、特に優秀な女性研究者対象の賞「ダイバーシティ推進センター女性研究者賞」の募集を行い、4名の女性研究者（奈良女子大学1名、奈良工業高等専門学校1名、武庫川女子大学2名）が選ばれ、研究費が支援された。

### 女性研究者の研究力向上のための支援

研究資金獲得セミナーを2部構成でオンラインで実施した。第1部「採択される研究計画調書の具体的な検討会」（8月14日、15日）、第2部「講演会」（8月27日）。英語プレゼンテーションセミナーをオンラインで実施した（3月8日、9日、10日）。

### 関西圏女子大学発・産学連携ダイバーシティ推進ネットワークの構築

実務者会議において「関西圏女子大学ダイバーシティ推進協議会」（仮称）のあり方について検討し、名称を「関西圏女子大学発・産学連携ダイバーシティ推進ネットワーク」とし、連携機関と協力機関等で事業の取組や講演会についての情報を共有するためのネットワークとして運営することとした。京都女子大学が新たに協力機関となり、ネットワークにも参加いただけることとなった。

### 2019年度成果報告書の発行と外部評価の実施

事業初年度の成果をとりまとめた成果報告書を発行し、4名の委員による外部評価が実施された。

【お問い合わせ】 奈良女子大学ダイバーシティ推進センター

✉ [diversity-center@cc.nara-wu.ac.jp](mailto:diversity-center@cc.nara-wu.ac.jp)

URL: <https://diversity-center.nara-wu.ac.jp/>

## 男女共同参画推進本部

男女共同参画推進のため、意識啓発事業として公開講座「知る・学ぶ・伝えるequality」の開催、関西圏女子大学と連携したプロジェクトである異分野交流会の実施、地域自治体の男女共同参画への取組に対する貢献などを行っています。

### 地域貢献事業「知る・学ぶ・伝えるequality」

「知る・学ぶ・伝えるequality」講座は社会連携センターが行う地域貢献事業の一つとして、男女共同参画推進機構が2010年から展開している事業である。「equality・平等」に関するさまざまなテーマで男女共同参画の根幹である「多様な個性の尊重」を身近な問題として捉え、学び、広めることを目的とし公開講座を開催してきた。今年度は「自己肯定感の回復が人間を成長させる」をテーマとして、2回の公開講座を開講した。

#### 地域貢献事業「知る・学ぶ・伝えるequality」連続講座第1回

##### 「犯罪を招く“男らしさの呪い”～奈良少年刑務所 絵本と詩の教室～」

【日時・場所】 2020年12月7日(月) 15:00～17:00 コラボレーションセンター3階 Z306

【講師】 寮 美千子氏(作家・詩人)

【参加者】 144名(会場19名、オンライン・オンデマンド配信125名)

寮氏は、奈良少年刑務所で先進的更生教育「社会性涵養プログラム」を実践してきた。これは奈良少年刑務所の女性統括官からの「心を閉ざしている少年たちに、情緒の種をまいて、育てて欲しい」という依頼から始められた。寮氏自身も最初は「言葉の力を信じていなかった」と振り返られたが、絵本の朗読から少年たちの仲間感や交流感が生まれ、評価のない場でリラックスしてコミュニケーション力を身につけ、詩を書くことで心を開いていった様子が紹介された。著書『空が青いから白をえらんだのです 奈良少年刑務所詩集』『世界はもっと美しくなる 奈良少年刑務所詩集』『あふれでたのはやさしさだった 奈良少年刑務所 絵本と詩の教室』に記されている少年たちの詩を寮氏が朗読された。そして、詩は神聖な言葉であり、犯した罪は消せないが、言葉を通じて豊かな心を持つことで罪の意味を変え、人生を豊かにできると話された。また、男らしさの呪い、女らしさの呪いなど、世の中が望む「こうでなければならないという呪い」に苦しむ人も多く、「鎧」によって頑張り過ぎてしまい、犯罪につながっていることもある。呪いから解き放されていくことが大切であり、他者を受け入れられるようになっていくと語られた。



会場およびオンライン配信、後日オンデマンド配信には、全国の大学関係者や一般の方々、学内教職員や学生、地域住民等が参加し、活発な意見交換が行われた。「言葉の力」や「男らしさ、女らしさ」など世間が望む呪いからの解放、呪いから解き放された豊かさについて考えるよい機会となった。

#### 地域貢献事業「知る・学ぶ・伝えるequality」連続講座第2回

##### 「自己肯定感 かけがえのない自分と出会うために」

【日時】 2021年1月18日(月) 15:00～16:30 オンライン開催

【講師】 根岸 和政氏(大阪大学大学院工学研究科相談室兼レジリエンス・教育部門担当講師)

【参加者】 120名(オンライン・オンデマンド配信)

自己肯定感とは、「自分は価値ある存在なんだ!!」と思えることであり、他者からの評価に関わらず、自分をかけがえのない存在として受け止めることと最初に学んだ。根岸氏は自身の経歴を紹介しながら、自己肯定感の-100%から+100%の変動について話をされた。「誰も助けてくれない」「受け入れてもらえないダメ人間」など感じていた時期があったが、警察官や裁判官からの一言、児童相談員としての経験、サンフランシスコ州立大学の田中万里子教授との出会いから、「人って変わるんだ!!」と感じたという。良い人間関係に恵まれたということは、かけがえのない自分との出逢いでもあると話された。そして、自分軸で、自分の目標を目指して、活動していることを認められることが重要であり、今ここでできる最善を尽くせばいい、「まっ、いいかぁ!そういうこと、あってもさ!」と思えることの大切さを話された。かけがえのない自分と出会うためには、物事の否定的な捉え方を変え、自分の感情に共感できるようになることと話された。最後に、私たちは出来ること出来ないことがあってこそ、価値ある存在であり、笑顔を大切に、一人一人がかけがえのない大切な人であると、まとめられた。新型コロナウイルスの感染拡大から、オンライン配信での講演となり、後日オンデマンド配信も合わせて、全国の大学関係者や一般の方々、学内教職員や学生、地域住民等が参加し、講演後質問も多く挙げられ、根岸氏から丁寧な返答をいただいた。自分の感情に共感する、自分と向き合う、「まっ、いいかぁ」と思えることの大切さについて考える機会となった。



## 関西圏の女子大学の連携推進活動

女性研究者の環境整備や研究力向上と次代の優秀な女性研究者の育成のため、関西圏女子大学間連携による女性研究者共同研究支援を目指して、2014年に関西圏の5女子大学有志によりワーキンググループが結成された。現在は奈良女子大学、武庫川女子大学、神戸松蔭女子学院大学の3大学メンバーが、年に数回のワーキンググループ会議を開催し、女性研究者の共同研究の推進、協働による研究環境の整備・充実、育児・介護共同利用システムなどを目指して活動している。

2020年度は以下の4回のワーキンググループ会議が開催された。

### 2020年度 ワーキンググループ会議開催状況

	開催日	会場	主な議題
第41回	10月1日	オンライン開催	第9回異分野交流会開催の打ち合わせ
第42回	12月4日	オンライン開催	第9回異分野交流会について（発表演題確認と役割分担）
第43回	2月7日	オンライン開催	第9回異分野交流会について（開催とその反省） 第10回異分野交流会の開催について
第44回	3月19日	オンライン開催	令和3年度異分野交流共同研究シーズ発掘支援経費の採択について 第10回異分野交流会開催について

### 異分野交流会の開催

女性研究者の研究が発展しにくい原因のひとつとして、出産・育児・介護などのライフイベントのために他の研究者と交流する時間がなく、共同研究が実施しにくいことが挙げられる。共同研究萌芽を促進するための試みとして、2016年2月に「異分野キックオフ交流会」を武庫川女子大学で開催し、それ以後毎年開催してきた。今年度は第9回異分野交流会を神戸松蔭女子学院大学（オンライン）で開催した。異分野の研究者が集い研究成果に対して、それぞれの立場から意見を交換することにより、思いがけない共同研究の萌芽が期待できる。

#### ◆第9回異分野交流会

日時： 2021年2月7日（日）13：00～17：00  
会場： 神戸松蔭女子学院大学 リモート交流会@ZOOM  
テーマ： 「みつける」「ささえる」「つなげる」  
参加者： 32名

#### 【プログラム】

- 13：00 開会 あいさつ 神戸松蔭女子学院大学学長 待田昌二氏
- 13：10 研究発表（パワーポイントによる口頭発表）
- 15：25 グループワーク
- 16：25 グループワークのまとめ・コメント
- 16：45 閉会 あいさつ
- 17：00 閉会

#### 【発表者と演題】

1. 野寄 亜矢子（武庫川女子大学、神戸市看護大学）  
「看護師の自ら学ぶ意欲評定尺度の開発」
2. 満武 華代（武庫川女子大学）  
「保健体育科教員養成段階の大学生における保健授業の省察力  
—所属コース及び教員志望度による比較—」
3. 三藤 清香（奈良女子大学）  
「囊舌目ウミウシにおける大規模な体の自切と再生」
4. 大谷 光一（武庫川女子大学）・黒木 邦彦（神戸松蔭女子学院大学）  
「Twitterにおける意思表示と情報伝播について」
5. 藤平 眞紀子（奈良女子大学）  
「住まいの管理から木材の魅力を考える」
6. 関 美佐子・春名 芽衣（神戸松蔭女子学院大学）  
「初級日本語教科書の応答詞「はい」と「ええ」の使い分け」

男女共同参画推進本部の活動についての問い合わせ先

Tel 0742-20-3204 e-mail somusomu@jimu.nara-wu.ac.jp

## ダイバーシティ研究環境支援本部

(旧女性研究者共助支援事業本部・女性研究者養成システム改革推進本部)

「女性研究者支援モデル育成事業」（2006～2008年度）「女性研究者養成システム改革加速事業」（2010～2014年度）において培った女性のライフイベントに配慮した教育研究環境の整備や女性の研究力強化支援を採択期間終了後も大学の重要な事業と位置付け、女性研究者共助支援事業本部と女性研究者養成システム改革推進本部において更なる整備と拡充を図ってきました。2016年4月、教育研究活動のダイバーシティ化を推進するため、2本部を発展的に統合して「ダイバーシティ研究環境支援本部」を設置しました。さらに2019年度には、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）事業に採択され、ダイバーシティ推進センターと共にさまざまな取組を進めています。

### 教育研究支援員制度

教育研究支援員制度は、補助金の配分を受けて、研究に関する支援が手厚くなった。この制度は、出産・育児・介護に関わる教員（男女を問わず）に支援員を配置する仕組みだが、男性の方にも利用していただいている。また、令和2年1月より、怪我や病気が理由の場合の教育研究支援員の配置もできるようになった。奈良女子大学で働く教員の皆さまが、ライフイベントの中にあっても研究と家庭を両立できるように取組を進める。

2020年度教育研究支援員制度利用状況

	5月～9月	10月以降
利用者数	14名	14名
支援員実人数	25名	25名

### 子育て支援システム

「公共の子育て支援でカバーしきれないところに支援を！」の声に答えて、「ならっこネット」を運営し14年目を迎えた。専任（共助サポーター）による支援を行う「ならっこコース」と、専任のいない「プチならっこコース」を利用者が選択することができる。「ならっこコース」では、Webシステム「Webならっこ」が利用でき、効率よく依頼できる。また、安全で安心な支援を実施するために、大学が保険に加入し、本部スタッフがサポートしている。学生の利用には「育児奨学金制度」、ポストドクターには「ポストドクター育児支援金制度」が整備されている。これまで、小学校3年生までのお子様をお持ちの方がならっこネットを利用した際の託児料を支援していたが、担当部署の方々のご尽力により、今年度から対象を小学校6年生まで広げていただくことができた。

2021年1月末現在、「ならっこネット」登録利用者数は47名（支援される子どもの数66名）、登録サポーター数は65名である。1月末までの本年度の「ならっこネット」依頼件数は261件で、うち228件が実施された。本年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い支援の自粛も検討したが、保育所などが休みになっても仕事が休めない利用者からの要望により、サポーター・利用者双方に感染リスクについて丁寧に十分に説明を行い、理解、了承された方から支援を継続し、例年よりも多くの利用があった。また、新規利用者も増えた。

「ならっこイベント」は、学会や講演会などでの託児を行うもので、運用11年目を迎えた。「集団託児」のほか、マンツーマンの「個別託児」が選べ、利便性を高めている。頻繁に利用される団体や部署には、「団体登録制度」をご利用いただき、毎回の手続きを簡略化できるようにしている。近年、イベント時に託児を設置することが多くなり、ニーズは確実に増えている。今年度は、コロナ禍でイベントが激減し、1月末時点で、今年度の「ならっこイベント」の依頼件数は4件、うち2件実施しており、のべ44名の子どもたちの託児を行った。

### サポーター講習

子育て支援システムを安全、安心に運営するために、信頼のおけるサポーターを学内外で確保し、その質を高めていくことが必須である。

今年度は「訪問型」病児・病後児保育システムの構築に伴い、病児・病後児を見ることのできるサポーターを養成していくため、サポーター講習の内容や開催方法についても大きく見直すこととなった。

子育て支援サポーターとして活動していただくためには、「サポーター登録説明会」を含む『通常託児支援のための講習』（12時間）の受講を必須とし、健康時の支援を行うための基礎知識やスキルの習得を目的として、子どもの心身の発達に応じた関わり方、基本的な保育技術、一次救命実習、安全に関する講習などを2日間にわたって実施した。

また、病児・病後児保育支援サポーターへの登録には、更に『「訪問型」病児・病後児保育支援のための講習』（10時間）の受講を必須とし、病児・病後児保育支援に必要なサポーターの心得、子どもの病気と対処方法、看護スキル、薬に関する知識などについて、小児科医師、看護師、薬剤師を講師に迎えて2日間の講習を実施した。

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、今年度は登録サポーター限定の講習とし、感染対策を行った上で学内での対面講習を実施したほか、新たな試みとして講習のオンデマンド配信を行い、受講したサポーターからは好評を得た。



## ワークライフバランス支援相談室(旧母性支援相談室)

3名のワークライフバランス支援相談カウンセラー(産婦人科医師・助産師・社会福祉士)が、学生・教職員からの相談に対応している。思春期から更年期までの女性特有のこころとからだの悩み相談、妊娠・出産・子育てに関する相談、介護(高齢者・障がい者)福祉に関する相談等、健やかにワーク・ライフ・バランスを保てるように支援を行っている。相談者の中には男性も含まれており、より多くの学生や教職員に気軽に利用していただけるように、2016年4月より相談室の名称をワークライフバランス支援相談室に変更した。また、2019年10月より、奈良工業高等専門学校及び武庫川女子大学との共同利用が開始された。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、相談は来室とオンラインの両方で対応した。また今年度開催した「ワークライフバランス支援相談室ミニ講座」では、「介護保険・障がい者福祉制度についての知識や介護予防など役立つ情報の提供」「生涯にわたる女性の健康について性差医療の立場から理解を深める」「生命の誕生・いのちを育むということに意識を向ける」をテーマに、すべてオンラインにて開催した。後日、オンデマンドでの配信も実施した。関心のある教員・職員・学生の皆様に参加していただき好評を得た。



## 情報の発信

今年度は「ならっこネット通信」(メールマガジン)3回、「ならっこニュース」(メールマガジン)を13回配信、サポーター向け冊子「サポーター通信」を1回、ワークライフバランス支援相談室チラシを2回発行した。

## ならっこルーム(奈良女子大学託児支援室)

「ならっこルーム」は2008年に開設された託児支援室であり、ならっこネットでの支援のほか、ならっこイベントでの託児や子育て支援システム利用者・そのご家族、お子様を連れて来学された方などが利用できる。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、消毒用アルコール・フェイスガード・パーティションなどの設置、利用する方々にマスク着用・手洗い・アルコール消毒・換気の呼びかけを行い、室内や備品などはこれまで以上にこまめな清掃と消毒を行った。1月現在で48件の予約があり、うち44件の利用があった。利用者のご家族とお子様はゆっくり過ごしたり、お子様を室内で遊ばせながら一緒に過ごす利用者も多い。今年度も新しい利用者やお子様の登録も増え、ますます需要が高まっている。

## 女性研究者ネットワーク

女性研究者ネットワークでは、女性研究者の研究力の更なる向上に資することを目的として、学内で主に女性教員を対象とした情報を整理して配信すると共に、大学内外からの女性教員にとって有益な情報を集約してメール配信している。2017年度より、情報提供を希望する大学院生・ポストドクターにも配信している。

2020年度(1月末現在)は、ワークライフバランス支援相談室、子育て支援システム、教育研究支援員制度の利用案内、学内外の公募情報(研究スキルアップ経費他)、講演会案内等、44件の情報配信を行った。

## 研究活動支援事業(研究スキルアップ経費)

本事業では、2010年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者養成システム改革加速事業」(2011年度より科学技術人材育成費補助金「女性研究者養成システム改革加速事業」として実施)に採択され、5年間の採択期間終了後も引き続き、理工農系女性研究者の採用促進や、研究スキルアップをはじめとする研究者養成活動等の取組を進めてきた。2017年度からは、研究スキルアップ経費の支援対象を理工農系に加えて、医・保健分野へ範囲を拡大し、2020年度は、支援対象を全ての分野へ拡大し、対象者も、常勤職員(助教・講師・准教授・教授)だけではなく特任教員、博士研究員からの応募を可能とした。

## 2020年度研究活動支援事業の活動実績

### ◆研究スキルアップ経費支援

女性研究者を対象に、国際会議・国内会議等の参加及び英語論文校閲等の経費を支援した。

### 2020年度研究スキルアップ経費支援の利用状況

理学系研究者	農学系研究者	医・保健系研究者	文系研究者
6件	3件	5件	1件

女性研究者の研究活動支援に関する問い合わせ先:

URL : <https://gepo.nara-wu.ac.jp/keihishien/>

e-mail : [j-kaikaku@cc.nara-wu.ac.jp](mailto:j-kaikaku@cc.nara-wu.ac.jp)

## ダイバーシティ研究環境支援本部の活動についての問い合わせ先

Tel/Fax : 0742-20-3344

URL : <https://gepo.nara-wu.ac.jp/>

e-mail : [shien@cc.nara-wu.ac.jp](mailto:shien@cc.nara-wu.ac.jp)

## キャリア開発支援本部

2016年度より一般社団法人産学協働イノベーション人材育成協議会の会員になり、大学院生、博士研究員を対象とした研究インターンシップや産学協働イベント、自己分析セミナー、進路に関する相談等を実施し女性研究人材のキャリア形成支援を行い、研究分野における男女共同参画推進を目指しています。

### C-ENGINEの「研究インターンシップ」 7名をコーディネート

17の大学とリーディング企業36社によって構成される一般社団法人産学協働イノベーション人材育成協議会(C-ENGINE)は「人の交流」「知の交流」を掲げ、研究インターンシップを推進している。オンラインシステムと、各大学に配置されたコーディネーターによる支援が特徴で、本学も2016年度から加入している。

今年度は、新型コロナウイルスの影響で、対面での交流会が実施できず、インターンシップ自体も実施できるかどうか心配されたが、C-ENGINE主催のオンライン交流会等を利用し、7名(6社)がインターンシップを経験することができた。希望者は昨年度同様の人数であったが、企業によっては一部あるいは全部のインターンシップの受け入れを取りやめるところもあったため、昨年の参加人数は下回った。しかしながら、各企業の協力のもと、リモートでの対応を工夫していただくところもあり、中でも、博士後期課程の学生が約3か月、博士前期課程の文系(社会学)学生が約2ヶ月の全期間をリモートで実施し、学生、企業ともに満足度の高いインターンシップを行うことができたことは特筆すべきことだといえる。

### 2020年度 C-ENGINE 研究インターンシップ実績 7人

所属 (専攻/コース/学年)	インターンシップ先	実施期間 (実施体制)	テーマ
住環境学専攻 M1	京セラ(株) けいはんなリサーチ センター(京都)	9/28~11/6 (週2~3日の実習と リモートの併用)	においセンサモジュール/システムを用いたガス濃度推定
複合現象科学 D2	ダイキン工業(株)(大阪)	10/1~12/25 (全期間リモート)	マテリアル・インフォマティクスに関する研究
人文社会学 (社会情報学コース) M1	(株)竹中工務店(千葉)	10/12~12/4 (全期間リモート)	職場内の指導・助言関係と働きがい等の 関連についての調査研究
数物科学 (物理学コース) M1	(株)堀場製作所(京都)	11/3~12/4	異物検査装置開発
数物科学 (数物連携コース) M1	コニカミノルタ(株) 高槻サイト(大阪)	11/10~11/30	画像に対する日本語キャプション生成 システムの開発
生活工学共同専攻 M1	(株)リコー リコーテクノロジーセンター (神奈川)	11/24~12/25 (12/12~リモート)	ノイズ画像の機械読唇への影響
数物科学 (物理学コース) M1	(株)リコー 環境事業開発センター(静岡)	12/14~12/25	HEV(Hybrid Vehicle Batteries)電池の リユース開発

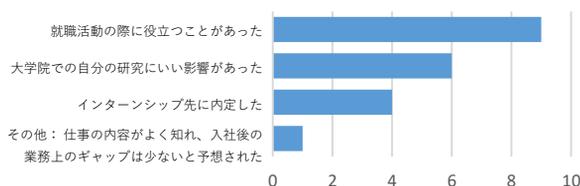
### C-ENGINEの「研究インターンシップ」 経験者のその後を調査 - 1年後アンケート -

2019年度のC-ENGINE研究インターンシップ参加者11名に、修了後1年以上経過した2021年1月下旬に、アンケートを依頼した。研究インターンシップが、大学院生活(研究・就職活動)に及ぼす影響を定量的に把握することが目的である。10名が回答を寄せ、その全員が「行ってよかった」と回答。グラフから、就職活動はもちろん、研究への影響も伺えた。

#### 就職活動に役に立ったことは?



#### 研究インターンシップに行ってよかったと思う理由は?



#### 大学での研究への「いい影響」とは?



## 授業支援 — 大学院生のキャリアに関する授業をサポート —

### ● 博士後期課程：自己分析・ワークスタイルセミナーA

2020年度に大学院博士後期課程が改組され、選択必修科目のひとつである「自己分析・ワークスタイルセミナーA」を、キャリア開発支援本部が支援することになった。

自己分析セミナーでは、ワークを中心にキャリアコーディネーターとの対話を通じて自己理解を深めた。

授業期間の後半の1月22日に、働き方や人生を考えるヒントを得るために、ゲストスピーカーをお招きして、講演と座談会を合わせたオンラインセミナーを実施した(右チラシ参照)。

講師として、本学をご卒業後、米国エール大学で博士号を取られ、現在、大阪市立大学で医療統計学の教授をされている、新谷歩先生をお招きし、人生を振り返ってのお話を伺った。

受講者からはいずれも、先生の「人生の岐路に立った時には『頭ではなく、心で選ぶ』」というメッセージに共感したり、今後の参考にしたいという感想が寄せられた。

### ● 博士前期課程：女性専門職キャリア論

博士前期課程学生を対象とした授業で、キャリア開発支援本部が保有するDVDライブラリー「ビジネススキル」「国際貢献」「職業能力開発」「ワークスタイルセミナー」の中から、自分が関心のあるものを選んで視聴する。毎月1回受講者が集まり、視聴した感想や自分のキャリアについての考えを交換し合う機会を設けている。

2020年度は12名が受講し、多くの気づきを共有した。

令和2年度 ワークスタイル オンライン セミナー  
(博士後期課程授業 自己分析・ワークスタイルセミナーA)

ようこそ  
先題!
大学院生  
対象

## 大学で教える仕事の話

— 奈良女子大学の大学院生に伝えたいこと —

キャリア 数学 転職 海外 研究 医療統計  
教育 アカデミア 生き方 価値観  
大学教員 子育て ワークライフバランス

**日時 2021年1月22日(金)**  
16:20~17:20 講演  
17:25~17:50 座談会 (履修登録者のみ)

**講師 新谷 歩**さん 大阪市立大学大学院医学研究科 教授

**プロフィール**

1991年 奈良女子大学理学部数学科卒業  
1994年 遼米  
2000年 エール大学博士課程修了  
2001年 ワンダービルト大学 助教授 准教授  
2014年 大阪大学大学院医学系研究科 教授  
2016年 現職

**メッセージ**

30歳で米国エール大学で博士号を取得、二人の娘を出産し7年前に帰国。現在、日本全国の医師や医学生に統計学を教えています。女性として、しなやかにキャリアを切り開く秘訣を皆さんにお話ししたいと思います。

主な専門は、多分野にわたる臨床データの統計解析。臨床研究修士コースでの10年間、若手医師向けにエンティティの統計解析に深く関与。2013年ワンダービルト大学医学部でデータチェックアワードを受賞。臨床研究セミナーに多数の論文(約200篇)を執筆。著書「今日から使える医療統計」(かんき出版)。

**申し込み** 履修登録をしていない方で、オンラインセミナー(講演のみ)をお聞きになりたい方は、下記の連絡先まで以下の要領でメールでご連絡ください。改めて視聴方法についてお知らせいたします。  
【件名】「0122 オンラインセミナー」【本文】「お名前・所属(専攻・コース・学年)・電話番号」(締切あり) 1月18日(月)

連絡先 奈良女子大学 男女共同参画推進機構 キャリア開発支援本部  
〒630-8506 奈良市北魚屋西町 H棟 5階 H501  
Tel/Fax 0742-20-3572 Email career-k@cc.nara-wu.ac.jp URL <https://cdpd.nara-wu.ac.jp>

## ドクターコース(博士後期課程)進学説明会

2020年11月20日、大学院人間文化総合科学研究科ドクターコース(博士後期課程)進学に向けての説明会が実施された。

大学院生のキャリア開発に特化した支援をしているキャリア開発支援本部からも支援内容を紹介した。

## 学術振興会特別研究員説明会

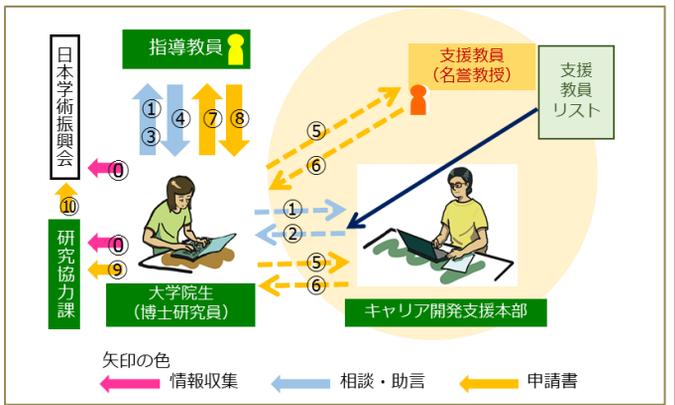
2020年12月18日、研究協力課主催の学術特別研究員(DC1、DC2等)説明会において、キャリア開発支援本部が新たに申請希望者への支援を強化することを説明した。進学希望者からの相談にも応じる。

男女共同参画推進機構  
キャリア開発支援本部

### キャリア開発に関する支援

1. **キャリア開発支援本部の考え方**  
ひとりひとりを大切に…100人いれば100とおりの道
  - ・ 大学教員への道を歩む人
  - ・ 民間企業を退く人→近年、企業からのニーズ↑
  - ・ 研究機関等を考える人
  - ・ それぞれの環境や事情にあわせて、その他の道も「あり」
2. **キャリア開発支援本部が提供できること**
  - a. **ご自分と向き合って思いや考えを整理する支援**
    - ・ 相談・自己分析セミナー など
  - b. **経験値(知)を高める支援**
    - ・ 研究インターンシップ(C-ENGINE)
    - ・ DCD支援(就活・学会・研究活動※の交通費支援:年間3万円)
  - c. **応募や申請に関する書類作成・面接対策支援**
    - ・ 応募先の非専門家に自分の研究を理解してもらうためのアドバイスを中心に
    - ・ 学術特別研究員申請支援の強化に向けて準備中

12/18  
学振  
説明会



## 博士キャリア開発支援制度(DCD支援制度)

「DCD支援制度」は博士後期課程学生、博士研究員の就職活動、学会発表の際の交通費補助により博士人材のキャリア開発支援をするものである。

単なる経済支援で終わらずに、就職活動、書類作成や面接対策などの継続的な相談につなげ、対象者のニーズに合わせた支援を心がけている。

- DCD就活支援
- ・ 高等教育機関(面接) 北海道

## 独立した相談室(H405)設置後の利用状況

2020年3月に相談室を設置した。主な支援内容である自己分析セミナーと相談の利用状況をみると、新型コロナウイルスの影響で、前期は前年比約75%(自:30、相:97)であったが、後期はオンライン対応にも慣れたせいも、前年対比(2月末)133%で推移している。これに授業の自己分析セミナーでの利用を加えると160%となる(自:53、相:89)。オンラインであっても個室での対応は必要である。

## キャリア開発支援本部の活動についての問い合わせ先

Tel/Fax 0742-20-3572 URL <https://cdpd.nara-wu.ac.jp> e-mail [career-k@cc.nara-wu.ac.jp](mailto:career-k@cc.nara-wu.ac.jp)

## 男女共同参画活動のアピール－自治体・他団体等との連携への取り組み－

### ◆奈良県・なら男女共同参画週間パネル展に協力参加

2020年6月23日(火)～6月29日(月)に開催された令和2年度なら男女共同参画週間パネル展(奈良県女性センター主催)に協力参加した。パネル展の様子は奈良県女性センターのホームページへ掲載された。

### ◆金沢大学令和2年度ダイバーシティ研究環境推進シンポジウムに協力参加

金沢大学令和2年度ダイバーシティ研究環境推進シンポジウム「多様な研究人材育成成分化のさらなる醸成にむけて」(2020年12月23日開催)で安田男女共同参画推進機構長が「1人1人に寄り添った支援を～ダイバーシティ推進に向けた奈良女子大学の取組～」という演題で基調講演を行った。

### ◆全国ダイバーシティネットワーク組織・近畿ブロック会議に協力参加

2020年7月9日(木)令和2年度第1回近畿ブロック会議・セミナーがオンラインにて開催され、春本ダイバーシティ推進センター特任教授が協力参加した。

2021年2月26日(金)令和2年度第2回近畿ブロック会議・セミナーがオンラインにて開催され、春本ダイバーシティ推進センター特任教授、今田ダイバーシティ実現イニシアティブコーディネーターが協力参加した。

### ◆第1回南近畿女性研究者支援ネットワーク会議に協力参加

2020年9月15日に開催された「第1回南近畿女性研究者支援ネットワーク会議」に安田男女共同参画推進機構長、春本ダイバーシティ推進センター特任教授、今田ダイバーシティ実現イニシアティブコーディネーターが協力参加した。

### ◆奈良ゾンタクラブ理系若手女性研究者奨励賞第2回選考と授賞式

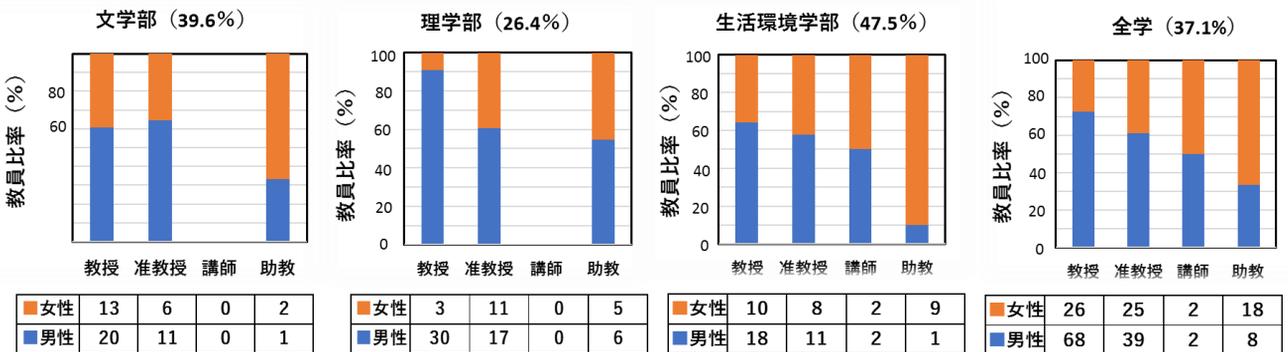
「奈良ゾンタクラブ理系若手女性研究者奨励賞」の第2回選考を行い、内田有希氏(生活環境科学系・生活健康学領域)を第2回受賞者に決定した。授賞式は2020年9月24日に第1回受賞者下村真弥氏(自然科学系・物理学領域)とともに挙行された。

## 奈良女子大学教員に占める女性教員の割合

本学の教員数は、2020年5月1日現在で186名。そのうち女性教員は69名(37.1%)である。2005年から14年間に渡る男女共同参画推進機構(男女共同参画推進室としてスタート)のリードによって女性研究者への支援体制が整備されたこともあり、女性教員比率は徐々に上昇してきた。学部別に見ると、文学部39.6%、理学部26.4%、生活環境学部47.5%となっている。職階別による女性教員比率は、学部によって事情が異なるが、概して上位職階は低く、下位職階にいくほど高くなる傾向にあり、やや改善がみられるものの、14年前と傾向は変化していない。2017年に本学は「女性活躍推進法に基づく行動計画」において、女性教員比率の目標値を38.0%と設定しており、昨年度は文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)に採択され、女性研究者の研究力向上、研究環境改善に向けて様々な取組が始まっている。今後成果が期待されることである。

## 奈良女子大学教員の男女別人数(2020年5月1日現在)

### 大学全体の女性教員比率37.1%



\* 教員は学部所属する教授・准教授・講師・助教とした。 \*\* 図中括弧内の数字は各学部の女性教員比率を示す。

編集・発行:奈良女子大学男女共同参画推進機構

連絡先:奈良女子大学総務・企画課

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

Tel 0742-20-3204 Fax 0742-20-3205

URL <https://gepo.nara-wu.ac.jp/>

